

羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神を崇め、賛美しながら帰って行った。 ルカの福音書 2 : 20

主の使いが羊飼いたちにイエス様のご降誕を知らせに来る場面は特にこの時期に読むと何とも言えない安らかな気持ちになりませんか？「ひつじは眠れり 草の床に 冴え行く冬の夜 霜も見えつ」と讚美歌で、またバッハのクリスマス・オラトリオのクリスマス第2日のシンフォニアの美しいしらは星の瞬く、静かな夜、羊たちを静かに守る羊飼いたちを連想させてくれます。が、実のところ羊飼いたちは貧しく、また神殿の儀式などには出られないので、ユダヤ教から破門され、裁判の証言も許されなかったそうです。（ルカの福音書：榊原康夫著）しかし、主の使いは民全体に知らされる素晴らしいニュースを人々から疎まれていた羊飼いたちにまず最初に伝えました。そして彼らはすぐさま、でかけ、飼い葉桶に寝ているみどりこを探し当てました。救い主に会えて羊飼いたちは「何もかも御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った」御使いの言った「大きな喜び」をいただき、抱えて、再び苦しい生活へ戻って行きました、でも来る時とは全く違いました。神様のあふれる恵みをいただいたので。救い主イエス様に会えた人たちは今もこの羊飼いのように大きな喜びに満たされるのです。アドベントのこの時期一人でも多くの方々が御子イエス様にお会いできますようにと祈ります。 Merry Christmas! 伝道師 川島正子